

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>本校の教育テーマ「環境教育」「国際理解教育」「表現活動」を相互に関連づけて推進し、グローバルな視点と主体的に生きる力を有する生徒を育成する</p>	<p>■公開授業や研究授業の取組を通して授業改善に努めたが、生徒の学習意欲を喚起するまでには至らなかった。各教科で生徒の実態に合った授業改善の取組を進める必要がある。</p> <p>■就職は100%の内定を得たが、私立大学、国公立大学とも合格者数が昨年度より減少した。入学時の希望が達成できるよう学習習慣を身に付けさせ学力を向上させる取組に力を入れる。</p> <p>■「環境教育」に関して環境大臣表彰を受けた。生徒の生活委員による環境保全活動の新たな取組も始めた。KES認証の更新も含め、総合的な学習の時間を使って「国際理解教育」「表現活動」との関連性を高めた取組に着手する。</p> <p>■広報活動は、ツイッターやホームページによる発信により学校を広くアピールするように努めた。学校説明会も在校生のプレゼン等により中学生に親近感を持たせることができた。</p> <p>■部活動については、部集會を定期的に開き北稜生として自覚ある行動を校外内において取ることができるよう指導した。</p> <p>■京都府自転車安全利用推進員の講習を約270人の生徒が受講し、交通安全意識を高めることができたが、自転車の安全運転については継続して注意喚起を図る必要がある。</p>	<p>【目標】 学習習慣を身に付けさせて学力を伸ばし、希望進路の実現を図る。自主性と社会性、規範意識が養えるよう特別活動と部活動の充実を図る。地域の学校としての使命を学校全体で共有して信頼される学校づくりを行い、3つの教育テーマ「国際理解教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連させた教育活動を展開する。</p> <p>【項目】 1 学習指導 (1)生徒の学力を向上させる方策を各教科で研究し実践する。 (2)教員相互の授業参観を通して授業改善を進め資質能力の向上を図る。 (3)生徒の学習意欲を高め理解を深めさせるために、ICTを活用した授業の開発に取り組む。 2 進路指導と生徒指導 (1)キャリア教育を推進し希望進路実現に向けた取組を改善する。 (2)北稜祭等の活動を通して生徒の自主性を養う。 (3)挨拶や身だしなみ、言葉遣いの指導に力を入れ規範意識を醸成する。 3 部活動指導 (1)学習と部活動を両立させる指導に力を入れる。 (2)部活動員に学校生活のリーダーとしての自覚をさせ、あらゆる活動に意欲的に取り組ませる。 4 魅力ある学校づくりと情報発信 (1)生徒が協働して課題解決型学習に取り組み、自ら考えたことを校外に発信する機会を設ける。 (2)学校の日常の取組が保護者や地域によりよく分かるように、ホームページやツイッターをさらに充実させる。 5 地域との連携 (1)近隣の大学や研究機関、小・中学校と学習や文化、スポーツの交流を行い連携の強化を図る。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	評価	成果と課題
教育課程 学習指導	本校の経営方針に基づいた教育課程を検証する	「学校経営計画」「学校経営の方針」を踏まえ、平成29年度入学生教育課程を検証し、各コースの特色ある教育課程のさらなる完成形を目指す。	各教科からの情報を集約・検証し、次年度に向けての課題が明確にできたか。		
	学力向上に向けての授業改善と基礎学力充実を図る	授業参観・公開授業・研究授業を計画・実施し、授業を客観的に見直す契機とするとともに、年2回に授業アンケートを実施して授業改善につなげる。	授業参観・公開授業・研究授業を実施し、多くの保護者・関係者・教員が参加したか。その後、教科会議等を利用した合評会を行い授業改善につなげられたか。 アンケートの結果が有効に授業改善の資料として提供できているか。		
		よりよい学習環境を維持するよう、教科担当と担任が密にコミュニケーションをとりながら組織的に指導を行えるように、シラバスの改善や研修を通して個々の教員が持つ知識や経験を共有できる環境を整備する。	授業態度等調査、1限目の欠課・遅刻状況および欠課過多生徒の報告が有効に教科担当と担任をつなぐ資料として機能し指導に活用できたか。 シラバスが家庭学習の習慣化や指導内容の定着に機能したか。 課題となる事項に対して、適切な時期・テーマで研修会を実施することができたか。		
		考査前補充および考査後の不振者に対する面談の実施を計画し、基礎学力の充実を図る。	学期ごとの成績不振者数を前年度に比べて減少させることができたか。		
特色推進 広報活動	国際交流に関する取り組みを充実させる	香港・マカオ研修旅行での研修内容をより充実させる。 マレーシアディヤタイ、ロシアの学生との交流など国際交流を積極的に進める。	事前学習の内容を実際の行程に即したものにできたか。教科学習などを交流に取り入れられるよう努力できたか。 できるだけ多くの生徒が交流行事に参加できたか。内容に環境や地域連携などを取り入れられたか。		
	環境教育に生徒が主体的に取り組める内容を検討する	環境・地域・国際をキーワードに、環境保護活動や環境学習に生徒が主体的に取り組むより達成感が得られるようにする。	総合的な学習の時間に実施する「地球環境学の扉」で、学んだ内容を理解し、その成果を発表したり、第三者に説明したりすることができたか。		
	広報活動を充実させる	学校説明会等を通して、学校全体として学力向上に取り組んでいることを紹介する。 Webページを全面改定するための方策を検討する。	毎回の学校説明会で、学力向上の取り組みや学習の大切さや面白さを伝える内容を入れることができたか。 Webページを全面改定するための方策を、多方面から検討し、来年度に向けて具体的な方策を打ち出すことができたか。		
生徒指導	安心・安全な学校作りをする	年間7回の交通安全指導を実施する。1年生に対する早期の交通安全学習・ネットモラル指導をする。貴重品の自己管理を徹底させるとともに校内巡回を行う。いじめを許さない体制を確立する。	年間7回の交通安全指導が実施できたか。1年生に対する交通安全学習・ネットモラル指導が実施できたか。盗難件数をゼロにできたか。校内巡回指導を実施できたか。いじめ調査を年2回実施し、その調査結果を教職員で共有して問題に対処できたか。また、いじめを許さない環境づくりと意識づけを行うことができたか。		
	主体的活動の活性化を図る	生徒会活動・各委員会活動などの生徒の主体的な活動を指導し活性化させる。 部活動の新入生に加入率80%以上、全体の定着率90%以上を目指す。部集會・キャプテン会議を活用して部活動生徒への指導を充実させ、北稜高校のリーダーの自覚を持たせる。	生徒会・各委員会の年間の活動をより高い意識で取り組ませることができたか。 新入生部活動加入率80%、全体の部活動定着率90%以上を達成できたか。部集會。キャプテン会議を計画的に実施できたか。部活動員が北稜高校のリーダーとして率先して動けるよう指導できたか。		
	社会性・規範意識を育成する	身だしなみ指導及び遅刻指導の徹底を図ることで基本的な生活習慣の確立と高校生としての自覚を促す。	制服の正しい着用が定着したか。頭髪・装飾品等の指導を徹底して行うことができたか。朝の校門遅刻指導で遅刻生徒の状況が改善されたか。		
進路指導	学習する集団をつくる	学年部と連携して、学習時間調査を定期的に行う。考査前だけでなく、平常時の家庭学習の習慣を定着させる。全学年に対して自習室の利用を促す。生徒のモチベーションが維持できるよう、声掛けを行う。	平常時の自学自習時間が1・2年生で2時間、3年生は3時間行っているか。		
	学力向上のための取り組みを行う	補習、土曜講座、学習合宿、模試の積極的な活用を促す。教科会議と協力して、模擬試験の事前指導・分析を行う。	補習・土曜講座の出席率が80%を超えているか。学習合宿の参加者満足度が90%を超えたか。模擬試験の分析会を定期的に行えたか。		
	進路の実現	担任と進路指導部で協力して進路学習を行う。教科担当と情報共有を行う。進路通信等の発行を通じて、進路情報の提供を行う。	進路通信を毎月発行できたか。各学年年間3回以上の進路学習を行えたか。国公立大学と関関同立の合格者数40名以上、産近甲佛龍合格者数120名以上、学校紹介による就職率100%。		
	キャリア教育を推進する	社会生活に必要な力を身に付けさせ、進路や生き方について考えを深めさせる。	全教員が日常的にキャリア教育を意識した指導ができたか。大学トークフェスタ、大学キャンパスツアー等のキャリア教育行事で生徒満足度80%以上か。		
学校保健 学校安全教育	健康実態の把握と生徒への援助	健康診断、保健室来室状況など各種情報をもとに、生徒の心身の健康状態を把握し、サポートする。	各種の情報を活用し、気になる生徒の心身の健康を早期にサポートできたか。		
	効果的な特別支援教育体制を確立する	特別支援の観点から支援が必要と思われる生徒に対して実態把握票を作成し、校内で情報を共有するとともに、特別支援教育コーディネーターを中心として指導・支援等を組織的に行う。	個別実態把握票により校内で情報の共有化を図ることができたか。		
	校内美化・安全点検の推進	美化・安全点検を定期的に実施して、教育環境の整備・改善に努めるとともに、生徒の保健委員会・生活委員会共同でゴミの減量に取り組む。	校内美化の推進とゴミの分別・減量に取り組むことができたか。		
読書指導 視聴覚教育	知的好奇心を引き出すことに努める	生徒の興味・関心を広げるように多様な分野の資料を備え、ニュースの発行などさらなる働きかけを行う。	生徒の一人あたりの貸し出し冊数や図書館を利用する生徒の割合を増やすことができたか。		
	課題解決型学習の展開に寄与する	各教科の学習に必要な情報・資料の提供に努め、図書館と各教科の学習活動との一層の連携を図る。	授業での使用機会が増加したかどうか。特別な特集コーナーの設置が増加したかどうか。		
教育環境 整備	自主活動を推進する	委員会活動をさらに推し進め、生徒自らが主体的に係われる機会の提供と指導を行う。	図書委員による企画・運営を充実させることができたかどうか。		
	安心・安全な教育環境づくりの推進	施設・設備の整備を更に進める。各分掌と連携し、課題の解決を図る。	教育環境の整備が進んだか。各分掌と情報を共有し、課題解決が図れたか。		